

田端文士村記念館 企画展

芥川龍之介 生誕130年
室生犀星 没後60年 記念展



芸術家村だった田端を

文士 芸術家村にした

二大巨頭について

比べてみました

入場無料

※休館日を除く
2022年

2月5日(土)

→ 5月8日(日)

略して
バタクラ!!

会場
田端文士村記念館

(JR山手線・京浜東北線「田端駅」北口より徒歩2分) (入館は16:30まで)

開館時間
10:00~17:00

休館日
月曜日(祝日の時は火・水曜)
祝日の翌日(土・日の時は翌火曜)

【主催・問合せ】(公財)北区文化振興財団 田端文士村記念館 ☎03-5685-5171 【共催】東京都北区 【協力】室生犀星記念館

芥川龍之介生誕130年・室生犀星没後60年 記念展

略してバタクラ!!

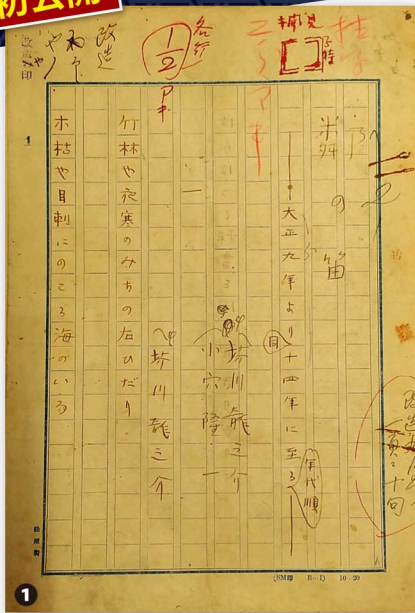
芸術家村だった田端を文士芸術家村にした 二大巨頭について比べてみました

芥川龍之介(1892-1927)を「文明紳士」、室生犀星(1889-1962)を「自然児」と称した詩人の萩原朔太郎(1886-1942)は、二人の友情を、性格等が正反対でありながらも互いを認め合った「君子の交り」と評しています。本展では経歴も文学の出発点も違う龍之介と犀星が、なぜ友人になったのか?共通点は何だったのか?お互いのことをどう見ていたか?など、当時の二人の作品や生活を比べて紐解きます。さらに、生前の龍之介の映像、犀星の肉声もご紹介!田端を文士村へと導いた二人の文士の生没周年に合わせた記念展をお楽しみください。※作家の優劣をつける比較ではありませんので悪しからず。



犀星(左)と龍之介(右)の珍しい2ショット!
(『アサヒグラフ』大正13年8月27日号)

初公開



① 俳友…龍之介と犀星の共通点の一つは俳句にあり

芥川龍之介「鄰の笛」原稿

大正14年に雑誌『改造』に発表した直筆の句稿。書かれた50句の中には、犀星の故郷・金沢から蟹を贈られたことを詠んだ「秋風や甲羅をあます膳の蟹」もある。

② パパ友…子どもの成長や家族のことを話す仲

芥川龍之介「ひたすらにはふ子おもふや笹ちまき」短冊

右上の2ショット写真が撮られた大正13年夏、二人は旅先で子どもの成長を話しながら句作をした。本句は、幼子の這う姿(はふ子)を詠んだ犀星の句を、龍之介が改作したものだという。

③ 壺友?…二人の骨董好きは文壇で有名!

犀星が龍之介へ贈った「九谷の鉢」

犀星は龍之介に、「まん中へちよつと五切ればかり、(略)黒い羊羹を入れなさい」と助言してこの鉢を贈った。鉢は龍之介没後も芥川家に大切に受け継がれ、正月などおめでたい場面で使用されていた。

④ バタ友?…互いに田端に住んでいたことで仲良しに

室生犀星「田端村」原稿(大正15年7月26日 読売新聞 掲載)

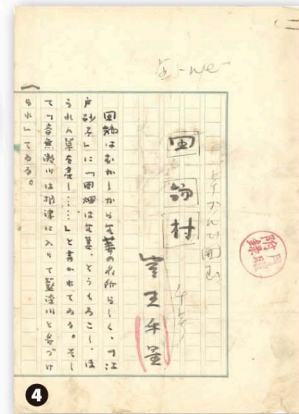
田端で暮らした頃に書かれた原稿。田端の移り変わりや風物、近隣に暮らした北原白秋、萩原朔太郎のことが書かれている。

⑤ 水友?…水生の生き物を書いた二人

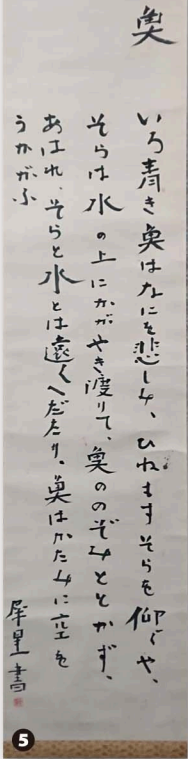
室生犀星「魚」書幅

本作は、犀星の小説「性に眼覚める頃」で主人公が詠んだ魚の詩。

龍之介も「河童」という小説を発表しており、二人は水中や水辺の生物(一方は空想上とはいえ)を作中に書いている。



初公開



常設展示スペースで開催

「芥川龍之介と太宰治」

(田端文士村記念館・太宰治展示室(三鷹の此の小さい家)・新宿歴史博物館 協働企画展示)

2022年 3月1日(火) ▶ 7月24日(日)
休館日を除く

田端・三鷹・新宿で芥川と太宰をテーマにした協働企画展示を開催。芥川と太宰の文学資料の展示をはじめ、芥川に憧れる太宰と太宰に憧れる芥川の息子のエピソードなど、様々な角度から2人を紹介します。会期中は休館日を除き、河童忌・桜桃忌スタンプラリーも開催。参加賞もあります。



©慶応市文書館 ©弘前市立郷土文学館

主催・問合せ

(公財)北区文化振興財団

田端文士村記念館

〒114-8523 東京都北区田端6-1-2 ☎03-5685-5171

JR山手線・京浜東北線「田端駅」北口より徒歩2分

※駐車・駐輪場は隣接の有料施設をご利用ください。

<https://kitabunka.or.jp/tabata/>

@bunshimura

※新型コロナウイルス感染拡大状況により会期を変更する場合があります。ホームページ等で最新情報をご確認の上、ご来館ください。